【2024 年 コー・フォーラム報告】

7 月 9 日～27 日　　藤田　幸久

スイス・コーは第二次世界大戦後のドイツとフランスの和解や日本の国際社会復帰に貢献した会議場です。1990 年代以降はロシア、ウクライナ、ポーランドなどの旧中・東欧諸国から多くが参加しています。

今年は、三つのフォーラムが開催され、コロナ禍以前のように約 60 カ国から参加しました。

各国の紛争当事者、犠牲者、市民、国際機関、シンクタンク、NGO、国会議員などによるイニシアチブが発表されました。

7 月 9 日

【コー・フォーラム開会イベント（ジュネーブ）】

本年初めて開会イベントがジュネーブの Maison de la Paix で開催されました。国連のジュネーブ本部に隣接する会議場で、国連関係者、外交官、国際機関、NPO 関係者など約 200 人が参加しました。

国連の Tatiana Valovaya 局長は、国連の主導する持続可能な開発目標（SDGs）を実現するための市民のイニシアチブ Inner Development Goals（IDG ｓ）の重要性を語りました。IDG ｓとは「持続可能な世界を実現するためには、人間の内面の成長が必要不可欠である」という NGO 活動です。

インド独立の父、マハトマ・ガンジーの孫ラジモハン・ガンジー元上院議員は「私たちは、他人を批評したがるが、他人を知っていないことが多い。比較するのではなく、受け入れる姿勢が必要ではないでしょうか？」と提案しました。

7 月 9 日～13 日

【コー・インナー・ディベロップメント・ゴールズ・フォーラム】

2021 年に「持続可能な世界（SDGs）を実現するためには、人間の内面の成長（IDGｓ）が必要不可欠である」という考えから、内面の成長を目指す会議がオンラインで開催され、世界中から約 1,700 が参加しました。スウェーデンのストックホルム大学や NPO『29Ｋ』が主導し、IKEA やエリクソンなどの企業、米国ハーバード大学などの学者などの協力で開催されました。IDGs は、Being（自分のあり方）、Thinking（考える）、Relating（つながりを意識する）、Collaborating（協働する）、Acting（行動する）という 5 つのカテゴリーに分かれています。SDGs を生活やビジネスなど身近で実践するために、どう行動して、社会に貢献できるかの具体的な目標です。コー・フォーラムでは、このカテゴリー別のワークショップが開かれました。多くの NGO などから初めてコーに参加する人が大多数を占めました。敢えて批判を恐れずに表現すると、「MRA/IC だけが『お山の大将』ではなく、同業他社が多数いることを実感しました。」

5 つのカテゴリー

食のあり方についての説明

活発な意見交換。食事にはワイン持ち込みも。コーの新しい文化！

カナダ・インディアン酋長による祈りの会　焚火係のオランダの経営者（私の右）

7 月 15 日～19 日

【コー・デモクラシー・フォーラム】

世界の民主主義の活性化のために、民主的ガバナンス、人権、持続可能な経済発展を強化することを目的としたフォーラムです。以下の 3 つのテーマで対話が行われました。

ワークストリーム 1：過去の傷を癒す-許しと回復

ワークストリーム 2：人間中心の経済学

ワークストリーム 3：対話を促進する市民社会 － 分極化から参加へ

Thomas Guerber スイス外務省国連担当副大臣

Nada Al-Nashif 国連人権副高等弁務官

Olivier Gfeller モントル市長（私の右）

Alon Liel 元南アフリカ駐在イスラエル大使
長年パレスチナ国家承認を主張してきている

ウクライナ代表。国会議員 2 名や歌手も含む

ロシアからの参加者

2008 年の豪州ケビン・ラッド首相による、先住民アボリジニーに対する長年の分離、弾圧政策に対する謝罪演説の紹介。Sorry 演説として党派を超えた国の政策となる。それに感動するアボリジニーや白人の皆さん。英国 MRA/IC のジョン・ボンドさんがこの支援活動を行った。

韓国からは、李柱榮韓国 MRA/IC 本部総裁（元国会副議長、元海洋水産大臣）夫妻、イ・テジェ在韓被爆者の会会長など 11 名が参加しました。近年改善中の日韓関係ですが、在韓被爆者や BC 級戦犯問題など未解決の問題などについて、韓国側から紹介がありました。それに対し、私は「MRA は戦後の日韓関係改善の橋渡し役をつとめ、大平正芳外務大臣と金鍾泌中央情報部長（後の首相）との会談による日韓国交正常化などに貢献しました。しかし、まだ未解決の問題があります。それが遅れたことに対しては Sorry と申し上げ、その解決に向けて無条件で取り組むよう政府関係者にも働きかけを続けます」と述べました。それに対し李柱榮総裁から、「日本の過去の行動や歴史を許し、新しい韓日関係のために、共に手を携えて進んでいきましょう」との発言があり、二人は抱き合ってその意思を確認しました。

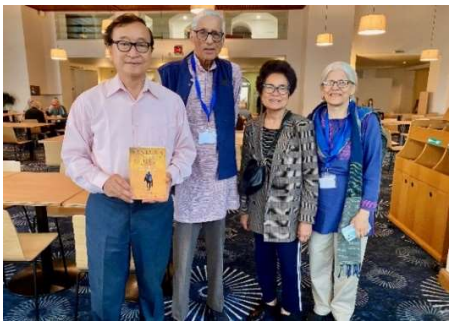
これに対して、会場の皆さんからスタンディングオベーションを頂きました。

7 月 22 日～27 日

【ヨーロッパ世代間交流会議】

戦争や紛争が国境を越えて地域社会の平和を脅かしている中で、子供、学生、家族、年金受給者、祖父母など、老いも若きも、こうした問題を一緒に考えようというフォーラムでした。

（左）最年長 98 歳のノルウェーのイエンツさんから、最年少の 2 カ月の赤ん坊まで円を作る。
（右）二人のひ孫を含む 10 数名で参加したイエンツさん一族の一部。（全員集合は不可能！）



カンボジアのソン・スーベール元国会副議長　カンボジアのサム・レンシー元財務大臣夫妻

●以下の会議の動画をご覧ください。

Caux Initiatives of Change Foundation - YouTube

【木俣愛子報告】
英国 Bradford 大学大学院卒業

お部屋からの景色。人生で見た中で一番綺麗でした

高見さんと韓国の参加者の方々

モーニングセッション

youth activist の方々と

今回、「Caux Democracy Forum」に参加するにあたり、私は主に三つの目的を持っておりました。第一に、他の参加者の方々から実際の経験や考えを学び、ネットワークを広げること。第二に、自身が取り組みたいと考えている「西アジア地域における女性の活躍推進」のアイデアについてフィードバックをいただき、さらなる思考の深化を図ること。そして第三に、「外部者」として、また日本人として国際社会にいかに貢献できるかを学ぶことでした。

第一の目的について、さまざまな国々やセクターから集まった方々と議論する機会を得られたことは、非常に貴重な経験でした。私は英国の大学院で平和学を専攻し、模擬国連やサマースクールなどに参加した経験がありますが、その際、国際社会問題、特に紛争の解決方法を考えることは難しい故に、理想論や机上の空論に終始してしまうことが多いと感じていました。しかし、当フォーラムでは「具体的な方法論」に焦点を当てて議論が進められており、難しいながらも非常に有益な経験となりました。

第二の目的について、フォーラムでは多くの素晴らしい出会いがありました。特に、ルームメイトのイギリス/アフガニスタン人の方や、現在もアフガニスタンで地下室での女性教育を実施している方からのアドバイスは、私の考えをさらにブラッシュアップする契機となりました。また、他の多くの方々からも所感や助言をいただき、まだまだ学びを深める必要があると痛感いたしました。

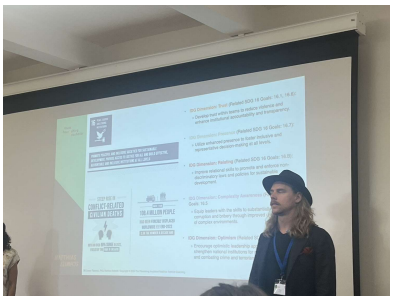
第三の目的について、日本人が「外部者」として果たすべき役割に確信を持ちました。海外において日本人は強い信頼を寄せられる傾向がありますが、それは日本人の規律正しく真面目で親切な性格や仕事の質の高さが大きく影響していると考えられます。また、このフォーラムのテーマに関連しますが、国際社会がますます右翼化し、自国中心主義が台頭する中で、アジアで最も安定していると言われる日本が果たすべき役割は大きいと感じています。さらにフォーラムでさまざまな方の実体験や考えを聞く中で、前向きな志向を持つことの重要性を強く感じました。そうした観点からも、「外部者」としての日本人であるからこそ取れるポジションがあるのではないかと感じました。

このように、当フォーラムでは自身の人生に関わる多くのことを再考する機会を得ることができました。最後に、藤田先生のおかげで多くの方々をご紹介いただき、その方々からのアドバイスを受けることができたことに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。これを機に、他の参加者の方々のように実際に国際社会に貢献できる人間となるよう、いっそう精進してまいりたいと存じます。

【高見龍輝報告】

鹿児島大学卒。スウェーデン Linkoping 大学修士課程

7/9 から 7/27 にかけ、スイスのコーで毎年行われている Caux Forum2024 に参加しました。全体的な感想として、会場の空気や参加者の方々に圧倒されつつも、大変得難い経験をした 3 週間でした。以下ではその様子の写真とそれに対応した説明をします。



① IDG フォーラムでのあるワークショップ

１つ目のフォーラム、IDG は Inner Development Goals の略称で SDGs の補完として提唱された、比較的新しい取り組みだ。概要としては、SDGs 達成にあたり、より一人一人の行動やマインドといったミクロレベルにアプローチしようというものだ。この写真のワークショップでは Goal 16 解決にあたり、実際個人レベルでどうストレスに認知的、身体的にどう対処するかを学び体験するものだった。

②ウクライナ・ミサイル片

2 つ目のフォーラム、Democracy では約 15 名ほどウクライナから参加され、中には国会議員の方々がおられた。ある方がワークショップ後、ジップロックから取り出してウクライナに墜落したミサイルの破片と、見えづらいがその爆撃を受けて損壊した家とそこに住んでいた家族の写真を見せてくれた。民主主義と聞くと、私はこれまで国を動かすシステムの一つという程度の理解だったが、異なる主義との対立、つまり争いの火種になり得るという意味ももつのだと思った。

③　Democracy の閉会式の一場面・日韓両代表の登壇

Democracy フォーラムの閉会式にて、日韓両チームが登壇し、そこで互いの代表者による日韓関係に言及したスピーチが行われた。忘れがたい経験だった。日本からは藤田さん、韓国からはイジュヨンさん、という両者とも自国の政治に深く関わったからこそ、その発言の重さが伝わった。特に、イジュヨンさんが口にした"I forgive"。解釈の余地の無い、真っ直ぐなその言葉に驚いた。

④　ピクニック

3 つめのフォーラム、Inter-generational Forum で行われたワークショップ。Caux palace から参加者各々の体力に合わせる形でピクニックが行われた。私は Dent de Jaman(1874m)という最も遠くて高い目的地まで、全て徒歩で往復するルートを友人たちと選んだ。Caux が 1150m ほどに位置しているため、約 700m の高さを行き来したことになる。その標高の高さから、コーでは長袖長ズボンで過ごしていたが歩くとなると話は違った。その道中は、草をかき分け、蛇に遭遇、またほぼ垂直の岩山をよじ登るなど、想像以上にスリリングなものとなった。だが、だからこそ道中共にした人々と話し、普段と異なる形で互いを知ることができた。

⑤～⑥　ある日の朝食・様々な顔をみせるコー

コーではフォーラム中は１日３食提供される。常に美味しいのはもちろん、私にとっては珍しい食事ばかりだった。何より、街と湖を見下ろす形で一望できる景色が色褪せなかった。またこの時、他の参加者と話すチャンスでもある。自分から飛び込むこともあれば誘われることもあり、食事の少しの時間も貴重なものとなる。藤田さんから誘ってもらうことが何度もあり、その度に藤田さんが長年仲良くしてきた様々な方と一緒に食事をし、勉強になることが多々あった。